

## 幼児健康診査の実施方法の改善について

- 行政苦情救済推進会議の検討結果を踏まえたあっせん -

総務省東北管区行政評価局では、受付けた国の行政に関する苦情等の行政相談のうち、制度改正しなければ苦情の解決が図られないもの、相談者の利益と公共の利益の調整が必要なものなど、高い立場に立った検討を加える必要があるものについては、民間有識者で構成される行政苦情救済推進会議(昭和61年12月設置。座長:石田眞夫)に付議し、その的確かつ効果的な処理を推進しています。

本行政相談については、平成16年10月開催の行政苦情救済推進会議での検討結果を踏まえ、平成16年11月12日、仙台市長に対して、改善を図るようあっせんしました。

(本件照会先)

総務省東北管区行政評価局  
首席行政相談官 佐藤 武男  
電話:022(262)7840

# 行政相談の要旨

職業を持つ母親にとって、幼児の集団健診が平日しか行われないのは不便であるので、**集団健診の土日開催や医療機関での個別健診を実施してほしい(仙台市在住の母親)**

## < 仕組み・現状 >

### 〔制度の仕組み〕

幼児健診(1歳6か月児健診及び3歳児健診) 市町村に実施の義務(国庫負担あり)

実施方法: 集団健診方式又は医療機関での個別健診方式のいずれか(集団健診の土日開催に対する奨励的補助あり)

健診担当者: 保健医療に習熟した者(医師、歯科医師、保健師、栄養士等)

### 〔仙台市の現状〕

集団健診方式により平日のみ実施(1歳6か月児健診及び3歳児健診を、年間延べ約200回実施)

小児科医師、歯科医師、保健師、栄養士等が担当



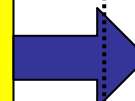
## < 集団健診の土日開催や医療機関での個別健診の実施上のあい路 >

### 〔集団健診の土日開催〕

小児科医の確保困難 庁舎管理上の問題 職員の休日出勤への理解

### 〔医療機関での個別健診〕

各種専門職の支援困難 集団行動の中での問題発見の困難性



## < 当局調査結果 >

### 〔先進都市での対応状況〕

各種の工夫により、集団健診の土日開催、医療機関での個別健診の実施例あり

### 〔同種の要望の存在〕

「仕事で時間がとれない」未受診理由のトップ(仙台市が一部の地域で行ったアンケート)

土日開催や個別健診の要望大とのアンケート結果あり(東北大学大学院生アンケート)

### 〔関係世帯の現状〕

共働き夫婦世帯数(6歳未満児あり) 約1万1千世帯

母親が働く母子世帯数(就学前児あり) 約2,400世帯(推計) } 約1万3千世帯

### 〔経費の比較〕(1歳6か月児健診の一人当たり健診経費)

仙台市1,360円(平日集団健診) ↔ 横須賀市1,750円(休日集団健診も併用) ↔ 北九州市7,450円(個別健診実施)

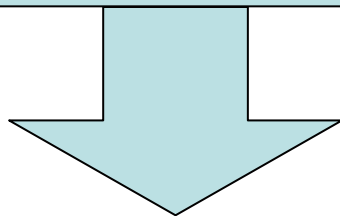
## 検討結果

働く母親の子育ての支援は、職場環境の整備や固定的な性別役割分業の是正を基本としつつ、男女の社会活動の選択に及ぼす影響をできる限り中立的なものとなるように、行政が一定の役割を果たすことが必要

少子化が進展しつつある中で、幼児の健全育成の支援に行政の果たす役割は大きく、健診という事柄自体も生命・健康の維持増進にかかわるものであり、行政の課題として重視すべき

住民の要望や利便性を考慮し、集団健診の土日開催や個別健診を実施している地方公共団体もあり、実施上のあい路は工夫により解決できる可能性大

特に集団健診の土日開催については、厚生労働省の補助制度あり、政策的にも奨励



## あっせん要旨

仙台市は、関係者との調整を早急に進め、平成17年度から集団健診の土日開催(現在実施されている平日の集団健診の一部の振り替え)を実施すること

なお、集団健診の土日開催の実施状況を見極めつつ、将来的課題として、医療機関での個別健診方式の導入の可否について検討を進めること